

# 「無定年」時代 年金激減後の働き方

編集長インタビュー  
ファッションを「水」にする  
ZOZO 前澤友作社長

時事深層 販売チャネル統合へ  
タブーを超えるトヨタ

2018年10月8日発行 隔週月曜日発行 第1961号 1969年10月9日創刊 第三種郵便物認可

## テクトレンド

高水準のバリアフリー化は、オリパラ会場だけにとどまらない。政府は17年2月に公表した「ユニバーサルデザイン2020行動計画」で、ガイドラインなどを踏まえた高水準のユニバーサルデザインを全国各地で推進する方針を打ち出す。

オリパラ大会に向けては、車椅子使用者に配慮した客室の整備が各地で進んでいる。設計段階から使用者の視点を入れ、さらに使用者による実地調査を行う例もある。見えてきたのは、法令順守だけではかなわない使い勝手だ。「Casual Resort COFF Ichinomiya」（千葉県一宮町、以下コフ）は、20年のオリンピックでサーフィン会場となる釣ヶ崎海岸から徒歩約5分の位置に立つ。

既存施設の隣地に、車椅子使用者をはじめ、高齢者や外国人、乳幼児連れ、



Casual Resort COFF Ichinomiyaの外観(上)。リニューアルオープンに備え、車椅子を使う人による実地調査を行った(下)

ペット同伴者など、広い客層に訴求できるUD(ユニバーサルデザイン)の新客室とレストラン棟を新築した。オリンピックによる周辺エリアにぎわいを、集客につなげることが狙いだ。

事業主であるデベロップ(千葉県市川市)の菅原淳専務は、「UDに関心はあったが、知見がなかった」と話す。設計は、デベロップ社内の建築設計部門。菅原専務が感じた「足りない知見」を補うため、UDのコンサルティング会社ミライロ(大阪市)に監修を依頼した。「基準寸法などは法規で確認できるが、それを守れば使い勝手がよくなるものではないのが難しい」。事業者側の担当者であるデベロップの亀田純治ディレクターはこう話す。

事業者作成の基本設計を基にして、ミライロの建築部門と社内の車椅子使用者モニターであるコア・ネットワークス(横浜市)の三ツ木俊之代表を交え、打ち合わせを実施。実施設計に反映した。

リニューアルオープン前の6月26日には、監修の一環で三ツ木代表と共に実地調査を行い、細部を最終確認。調

整したのは、シャワーカーテンや手すりの位置などだ。

カーテンは、浴槽に座り台を置き、そこに腰掛けてシャワーを浴びる車椅子使用者を想定して設置。シャワーを浴びる間、車椅子が濡れないようにカーテンが必要だ。

だが、座り台を浴槽に掛け渡していると、浴槽内にカーテンを取められない。その場合、適切な取り付け位置はどこか。「設置位置はもとより、カーテンの必要性すら、健常者では考え付かなかった」(亀田氏)。このほか、実施設計での配慮が実際に使いやすいことを確認。

コフの既存客室の年間平均稼働率は約60%。新客室の運用で80%に引き上げることを目指す。

### 一歩ずつ理想に近づけていく

都市や建築のバリアに悩んでいるのは障害を持つ人だけではない。東京大学の松田雄二准教授は、「初めから全ての人が満足できる状態は難しい。だからこそ実例やガイドラインをチェックリストのように扱わず、利用者と環境との間で実際に何か起きているのか観察してほしい」と話す。改良を重ね、一歩ずつ理想に近づけていくことが重要だという。

見過ごされてきたバリアの解消は、新しい市場と捉えることもできる。バリアへの不満の声を少数の意見とみるか、新しい市場に踏み出すきっかけとするか。後者を選べば、ビジネスの領域が広がるかもしれない。

(谷口 リエ、森山 敦子  
＝日経アーキテクチャ/日経 xTECH)

### 日経アーキテクチャ

一級建築士など建築界に携わる人に意匠・構造・施工などの専門領域に加え、建築界を取り巻く経営実務情報も提供している。

ALog

ビジネスの未来を指し示す  
ALogシリーズ

AM/IA 株式会社 構築 ALOG